

みつくら

令和 7年11月15日 第446号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お~い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

大瀬川男子バレーチーム9連覇を達成!

10月12日、石鳥谷町スポーツ協会主催の第52回石鳥谷9人制バレー大会が石鳥谷町体育館で開催された。開会式で、昨年優勝した大瀬川チームから優勝カップ返還を藤原誠さんが、選手宣誓を菅原崇将さんが行った。また、開会式の閉会は石鳥谷町スポーツ協会副会長の畠山勝敏さんが行い試合が始まった。男子の参加チームは4チーム。初戦は好地チームと対戦してフルセットでもつれ、最終セットはデュースが続いてどちらが勝つか手に汗握る試合となつたが、26-24で大瀬川チームが競り勝った。決勝戦は八重畠チームと当たり、こちらも接戦の末優勝を手にした。

閉会式で中村浩之協会会长は「大瀬川チームの9連覇おめでとうございます」とお祝いの言葉のあと、「他のチームは大瀬川チームの10連覇を阻止するよう頑張って下さい」と激励した。

出場選手は、板垣暁幸さん・板垣春介さん・板垣拓海さん・板垣伸吾さん・菅原崇将さん・板垣幸規さん・菅原茂さん・菊池遼太さん・藤原誠さん・板垣雄一さん。

皆さん優勝おめでとうございました。

第30回を迎えて賢治葛丸祭

10月13日に大瀬川構造改善センターで石鳥谷賢治の会の「第30回賢治葛丸祭」が開催され30名が参加した。

当日は、来賓に花巻市賢治まちづくり課の大竹静治課長を迎えて、渡辺良治副会長の開会の後、松村稔会長が「今回は節目である30回を迎えることができて大変感謝しております。これまでの先輩方のご苦労の賜物であり今後も宜しくお願い致します」と挨拶した。続いて来賓の大竹課長からは「この大瀬川地区は賢治先生との関わりが多い地域で賢治の会の皆さんにも色々な事業でお世話になっております。来年は賢治生誕130周年の年になりますので、市としても各種の事業を企画しておりますのでご協力をお願いします」と挨拶があった。来賓挨拶の後、賢治先生が大好きだった鹿踊りを春日流八幡鹿踊保存会の7名の方々が勇壮に踊った。その

後保存会代表の玉山さんが一人一人を紹介した。被り物を外して見せた顔の中には女子中学生もいて、衣装は16Kgもあると聞いて皆が驚いていた。続く「賢治さんへの手紙」では石鳥谷地区の石鳥谷小学校、八幡小学校、石鳥谷中学校、花北青雲高校の生徒4名による賢治作品を読んだ感想や作品をとおして自分の生き方を考える思いを綴った手紙が代読で披露された。大人顔負けの深く読み込んだ内容に参加者は感心していた。最後は全員で「精神歌」を歌い終了となった。

今年最後の草刈り作業を行う

下大瀬川美土里の会(熊谷俊彦代表)は10月18日、今年最後となる8回目の草刈り作業を29名の参加で実施した。

熊谷代表は、「今年最後の草刈り作業となります。今回は獣害対策としてクマ、イノシシ進入防止のための緩衝地帯を作る草刈り作業となります。皆さんも熊に遭遇した場合は地域住民への注意喚起の為にも、市や警察への通報をお願いしたい」と呼び掛けた。

作業は、22日に行われる県の恒久電気柵講習会の場所の草刈りと設置に支障となる木の伐採を1班が担当し、2、3班は、ふれあい運動公園近くの薬師堂川河川敷の草刈りを行ったが、河川敷は繁茂した「葛」が絡まって草刈りが大変で、1班の応援で約250mの作業を終えることが出来た。この場所にも「けもの道」と思われる動物の通った跡が数本あった。

市民芸術祭(石鳥谷会場)に出演

花巻市民芸術祭石鳥谷会場は10月18日から10月20日までの3日間、石鳥谷生涯学習会館で作品展示が行われた。この中で大瀬川から書道部門に熊谷静香さんの「許渾詩」、手芸部門には熊谷満子さんの手提げバック、板垣あきさんの裂き織りが展出された。

また児童生徒の部門では図画・デザインの部に畠山楓さん(下西海地家)、毛筆・書写の部に熊谷心々さん(田屋家)、熊谷水希さん(牛房家)、熊谷陽麻梨さん(萬之助竈家)、板垣美月さん(たばこ屋)達の作品が出展されていた。

再び恒久電気柵講習会が開催される

7月25日に行われた県の恒久電気柵講習会が再び10月22日に開催され、葛丸川沿いの富沢橋から大瀬川橋の間で160mに電気柵が延長された。今回は、主に県内の農業改良普及センターの若手職員や自作地で被害にあった方々を対象に、県農業普及技術課の中森課長の指導で21名が参加して行われた。これには、下大瀬川美土里の会からも8名がお手伝いしながら、再度恒久電気柵設置実習を確認した。この研修に参加した前沢のリンゴ農家のの方は、「今年はクマの被害が多く、今後を考えてこの電気柵の設置研修に参加した」と話していた。

九区農家組合で研修旅行が行われる

九区農家組合(熊谷豊組合長)は、10月26日に令和元年

度以来となる研修旅行を28名が参加して実施した。

研修先は、平成23年に全国農林水産祭むらづくり部門で「天皇杯」を受賞している遠野市宮守町の農事組合法人宮守川上流生産組合で、生産組合の歩みである「一集落一農場の実現をめざして」のビデオを見ながら、桶田陽子組合長から詳しくお話を聞きました。

これまでの主な歩みとして、農業従事者の高齢化が進んでいる中、平成3年に農村整備事業(面積101ha)が生産組合活動の始まりであったこと、生産組合を設立し「一集落一農場」の実現をめざし地域住民と3年間で400回に及ぶ徹底した話し合いを行ったこと、当時の組合長の強いリーダーシップがあったことにより事業が推進できたことなどの説明があり、基盤整備や集落営農に取り組もうとしている地域にとって大いに参考となった。何よりの驚きは、桶田組合長が自らお話をしていた「私は、よそ者で、若者で、女性です」ということ。そのような立場の方を組合長とする地域の懐の深さに感銘を受けたところである。

組合はほかにも、加工部門を作つて6次産業化を推進。季節野菜やワラビ、またブルーベリー、リンゴ、ブドウのジュース、ジャム等のほか、どぶろくの加工まで行い、年間を通して産直施設(サンQふる郷市場、遠野風の丘)やネット販売を手がけている。平成16年には農事組合法人として登記し、現在は担い手の育成に取り組みながら次なるステップとなる「明日の地域ビジョン」を創作していると桶田組合長から説明があった。

加工場とサンQふる郷市場を視察後、一行は大槌町の「三陸花ホテル はまぎく」で花巻農協石鳥谷支店から熊谷叔加支店長を来賓に招いて、今年の農業情勢についてお話をいたいたい後、参加者とともに懇親を深めた。

今回の研修は、当地区で現在行われている農村整備事業の進め方に大いに参考となったものと思われる。

7区農家組合で研修会を開催

10月26日、7区自治公民館で7区農家組合(菅原照子組合長)が令和7年度の研修会を開催し24名が参加した。

今回は、花巻農協営農センターの藤原賢徳(まさのり)センター長を講師に招き「令和7年産米及び野菜の状況」について研修した。

藤原講師から「今年も昨年同様に猛暑の影響があったものの、皆さんの適切な管理により、品質はまずまずでした」と説明があった。藤原講師はまた「山王海土地改良区から、今年始めて『番水』を実施しましたが、来年度以降もこの天候が考えられるので、この『番水』があるものと考えていただきたい。また、不都合や要望等があれば地区役員に伝えていただきたい」とも語った。

その後、菅原康之山王海土地改良区総代の乾杯の発声で収穫感謝祭を行い、お弁当と芋の子汁を囲んで楽しく懇親を深めた。

みつくら

令和 7年11月15日 第446号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お~い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

くずまる大学が移動研修

くずまる大学（板垣正博自治会長）は、10月29日に18名が参加して遠野・大船渡方面に移動研修を行った。遠野では「とおの物語の館」を見学し「遠野座」で二人の語り部による遠野物語「カッパ渕」「寒戸の婆様」「貧乏神と福の神」「豆腐とコンニャク」の4話を温かな語りに懐かしさを感じながら聴いた。その後陸前高田市の海浜館で昼食を摂り、昼食後は今年2月に山林火災があった大船渡を訪れた。大船渡の山林火災は、今年の2月19日、26日に発生し雨が降った3月5日の鎮圧まで8日間に渡って燃え広がった。被災面積は3,370ha、死者1人、焼失した建物は226棟で、鎮火宣言は出火から実に40日後であった。この被害面積は平成からの記録では我国最大であるという。ちなみに、平成9年5月2日に発生した大瀬川山林大火の被害面積は304haなので、10倍以上の被害である。車中からではあつたが、真っ黒く焼けた山林が至るところに広がって見え、民家近くまで火が迫った跡も見受けられた。出火原因は現在も調査中であるというが、あらためて私たちも、あの大瀬川の教訓を思い出して、山に入ったならば絶対に火を使わないよう注意しなければならない。

板垣さんがNHKテレビで「陸羽132号」

10月31日にNHK総合テレビの東北版で、板垣光彦さんが「陸羽132号」の栽培で放映された。この番組は「東北米産地・100年の歴史」を特集したもので、明治時代の米の産地は関東や近畿が主で、47都道府県のなかで秋田県が39位、岩手が46位と紹介された。そこで山形県庄内平野に住む阿部亀治は、冷害の時に他の稲穂が全滅なのに、たまたま3本の茎に稔ったのがあったので、その3本の種をとり、それを明治27年から4年間にわたって寒さに強い穂を選んで植え替えし、出来上がったのが「亀ノ尾」。その亀ノ尾と陸羽20号を人工交配して生まれたのが陸羽132号で、宮沢賢治が獎めた品種で、現在のこしひかり、あきたこまち、ひとめぼれなどの基になったと解説あった。板垣光彦さんは、田んぼにしゃがんで稲穂を手で受けながら「これが陸

羽132号の田んぼです。賢治さんは農家の要望に応じて、陸羽132号の栽培についていろいろ指導したんですね。倒伏の恐れにたいしては、肥料ばかりではなく、堆肥も多く使いなさいと祖父に教えたんです」と話していた。板垣農場では、陸羽132号を平成9年から現在まで絶やさず栽培を続けている。

マジックショーで楽しいひととき

たんぽぽの会（菅原文子会長）は11月5日、九区自治公民館で「笑顔の種まきマジシャン」Mr・トミー（富澤惣一さん）のマジックショーを開催し23名が参加した。菅原会長は、「今日は久しぶりの小春日和ですが、目の前でマジックを見て、ひととき仕事を忘れて下さい」と挨拶した。

マジックショーではバックミュージックが流れる中、Mr・トミーの楽しい語りで、ハンカチやロープそしてトランプなどを使った手品が次々と繰り広げられ拍手喝采となった。そのほかに、読みにくい漢字を読み合う脳トレもあり、参加者は配られたおやつのジュースやせっかくの懐かしいもち米で作った「黒糖ぶかし」などお菓子をつまむ時間も忘れるほどあつという間の楽しい時間を過ごした。

最後に、菅原会長から「次回は12月24日の10時からクリスマス会を予定しているので誘いながら多くの参加をお待ちしています」と案内があった。

7年目となる銀杏ライトアップ開始

大瀬川運動公園のシンボルである銀杏のライトアップが今年は11月2日から始まった。時間は16時45分から21時30分までで期間は12月中旬までを予定している。この事業は活性化会議の地域交流事業の予算を使い行っており今回で7回目を迎える。きっかけは平成30年の10月末頃に事務室で何気なく銀杏が次第に色付いていく様子に「ライトアップしたら綺麗だろうな~」との話が出て、まずは電気代を試算し1日当たり400円位で始まった。始めた頃は県道13号線からはあまり見えなかつたが、3年前からは県道からも見えるよう駐車場にもライトを設置した。去年銀杏の実がたくさん付き、枝折れの心配もあったため畠山造園に依頼して枝を整理した。今年も隣のメタセコイヤとともにシンボルツリーとして夜空に浮かび上がっている。これからは落葉して枝が白く浮き上がり幻想的な光景が楽しめる。大瀬川運動公園は春の桜とともに多くの人たちに親しみを持ってもらえるよう、ライトアップで地域をPRしている。

大瀬川ゆかりの三又治彦演奏会

大瀬川ゆかりのNHK交響楽団ヴァイオリン奏者の三又治彦さんの演奏会が、8月23日に石鳥谷生涯学習会館で250名の聴衆者のもとに開かれた。

この演奏会は石鳥谷楽友会が主催したもので菊池優子会長は「石鳥谷町に縁がある三又治彦さん招いての演奏会は、後援ををいただきました石鳥谷町芸術文化協会さんと、いしどりや眼

科さんのご協力をいただいて、このように盛大に開催することができました」と挨拶された。

この演奏会は、三又治彦さんの他、お二人の奏者で構成され、演奏の間にトークを交えての楽しいひと時であった。

三又治彦さんはトークで「私の祖父は、ここ、石鳥谷町大瀬川で医院を開業し、その後に八幡に移転した三又医院ですが、私が生まれる2年前に亡くなっているので石鳥谷に縁があるのも知りませんでした。しかし、石鳥谷楽友会さんから石鳥谷との縁をお聞きして、今回の演奏会になりました」と大瀬川の三又医院について話された。私たち大瀬川に住んでいる方々でも、現在70歳以下の人たちには三又医院は知らないと思われる。そこで簡単に大瀬川にあった三又医院を紹介したい。

三又医院は、現在の畠山孝二さん宅地（九区）にあった医院で、明治35年に三又與次郎医師が大瀬川に開院している。その医院は、大澤医院が閉院した建物で、開院準備のために明治33年から2年間姉屋敷（菅原裕二さん宅）で診療所を開いた記録がある。

こうして開業した三又医院は、與次郎、宮次郎と続いたが、宮次郎が没した後に、娘の三又祐子に仙台から三又勝彦医師を婿養子に迎えた。三又医院は昭和42年に石鳥谷町好地に移転するまで実に65年間、大瀬川に存在し遠くは大迫や宮野目からも通院したという。

では、三又勝彦医師と三又治彦さんの関係をもう少し説明すると、三又勝彦医師もヴァイオリン奏者で八幡に移転した翌年に石鳥谷町芸術文化協会を設立し、創立から9年間に亘って会長を歴任している。その三又勝彦医師には、長男の三又知文医師（東北大学医学部卒、医学博士）、長女の三又恵利子さん、次男の三又雅文（石鳥谷町職員）の子息がいた。その三又知文医師の子息がNHK交響楽団ヴァイオリン奏者の三又治彦さんである。

この演奏会には当初150席の椅子が準備されたが、どこにも足りず、続々と追加する程の盛会であった。

昭和新山の隆起と大瀬川

菅原卯太郎（以下敬称略。妻は堤田家生まれ）は河原家（7区）の長男に生まれたが、昭和初期に弟の菅原清治に家督を譲り、北海道有珠郡壮瞥町に開拓入植した。

昭和19年1月には近くの湧き水が20度であったのが40度に達し、その後5月には自宅周辺が30mも隆起した。

6月には有珠山の噴火が始まったので一家が隣町に避難。この有珠山は以後1年で17回の噴火を数え終息する。

菅原卯太郎が住んでいた場所が後に高さ175mも隆起し、昭和新山と名が付けられた。卯太郎は噴火が収まったあとに見に行くと茄子などを植えていた畑が丁度昭和新山の頂上であったという。菅原卯太郎一家は、その後終戦に伴い昭和21年に大瀬川の五所ヶ森付近に帰って来たが子供達は東京に移転し、卯太郎一人が暮らしていた。死亡後は、御所森に在る河原家の墓に埋葬されている。